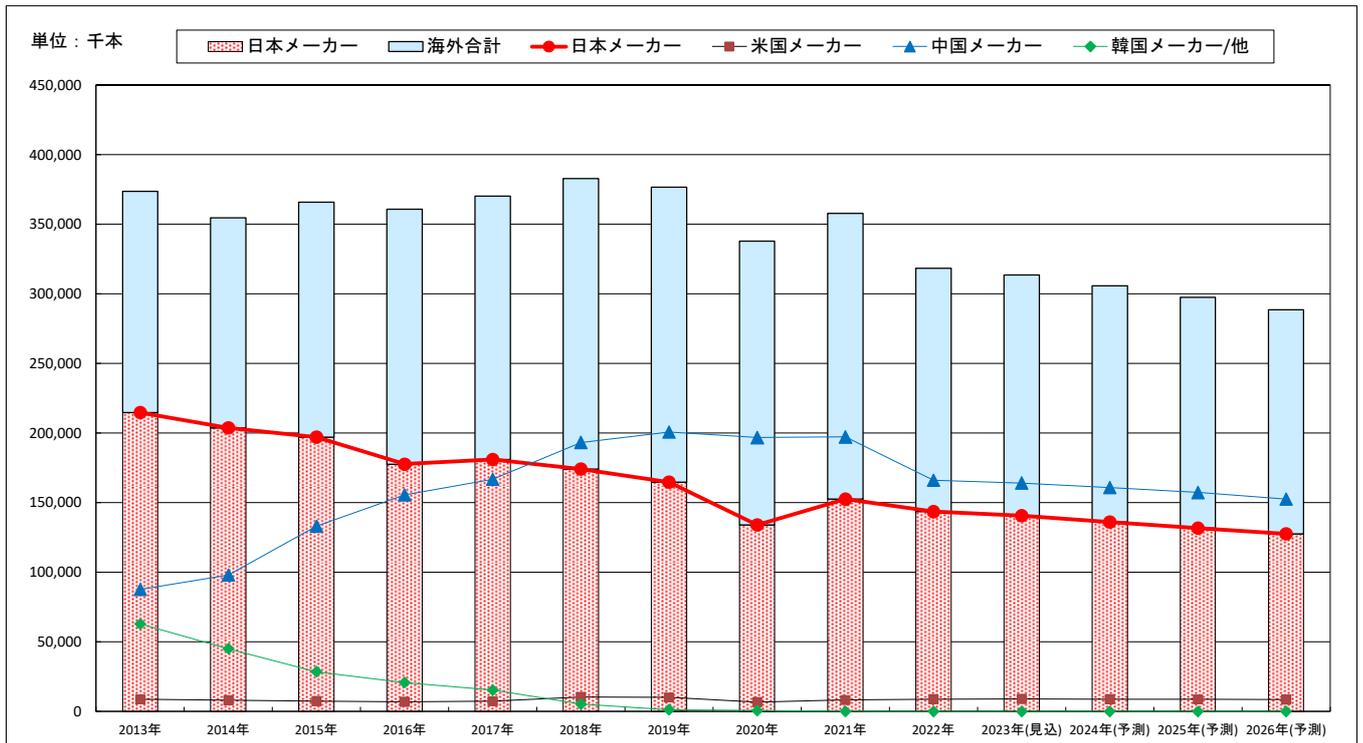


# 調査報告書

[2023年版 感光体マーケット総覧]

## 『変化の時代に真価が問われる 感光体市場の総合分析』

=感光体、素管、塗布材料の市場動向を詳細分析=



<感光体市場の長期推移（2013年～2026年）>

2023年2月



日・中・米・欧の市場調査  
株式会社 データ・サプライ

〈調査概要〉

I. 調査テーマ

[2023年版 感光体マーケット総覧]  
『変化の時代に真価が問われる感光体市場の総合分析』  
＝感光体、素管、塗布材料の市場動向を詳細分析＝

II. 調査主旨

新型コロナウイルス感染症の世界的流行拡大から今春で丸3年を経過した。感染症は依然として収束に至っていないものの、オフィスへの出勤率は一時期と比較すると回復傾向を示しており、部材不足等によるサプライチェーンの混乱もようやく落ち着きを取り戻してきた。

前回レポートで述べた通り、複合機・プリンタ業界においては、働く場所が従来の集約型オフィスから自宅やサテライトオフィスなどの分散型オフィスへと拡大するなか、これら様々なワークプレースの印刷ニーズに対応していくことが各社の基本戦略となっている。在宅勤務の拡大は一時的に小型プリンタの需要拡大に寄与したが、テレワークは仕事の効率性やセキュリティという点からペーパーレスワークの導入を促進させる側面を持っており、オフィスワークにおけるプリントボリュームを押し下げていく一つの要因となることも明らかになってきた。

感光体という部品に目を向けると、その需要の80%以上はサプライ用（市場に設置された機器の消耗品用）であるため、プリントボリュームの減少は感光体需要の減少に直結する。このため主要各社においては、感光体の全体需要がコロナ前の水準には戻らないことを前提に他社のシェアを奪うことで自社のシェアを維持していくか、もしくは機器に占める感光体コストをどのようにして低減させていけるかを模索している。コスト低減については長寿命化による感光体交換回数の低減を各社が目指しているほか、内製メーカーの場合は外注品への切り替えも議論されているが、品質維持の観点から二の足を踏むメーカーも多いのが実状である。

複合機・プリンタ業界における最大市場（本体出荷台数ベース）に成長した中国でもその状況は刻々と変化している。感光体サードパーティ市場では全体の9割を中国メーカーが占めているが、純正品市場の縮小に伴いサードパーティ市場も頭打ちになっていくことは確実であり、本数重視の超低価格品を手掛けてきた中国企業の淘汰が始まることも予想される。

このように厳しい市場環境にさらされている感光体市場であるが、感光体が印刷物の画質に直結する電子写真プロセスの最重要パーツの一つである点是不変である。弊社の各種レポートで繰り返し述べている通り、最終的には品質とコストを両立できる総合力を持ったメーカーに需要は集中していくと考える。

「2023年版感光体マーケット総覧」は、シリーズ第33回目の刊行となります。感光体メーカーのみならず、素管メーカー、材料メーカーを幅広くリサーチしていきます。本レポートをご利用いただく関係各位におかれましては、事業再発展の一助となることを望みます。

III. 調査対象品目及び調査対象先

1. 調査対象品目

1) 感光体

- OPC感光体
- Se系感光体
- a-Si感光体

2) 感光体アルミ素管      3) 塗布材料

2. 調査対象先

- 1) 感光体メーカー（国内9社、海外18社）
- 2) 感光体素管の押出・引抜・切削メーカー（国内10社、海外9社）
- 3) 感光体塗布材料メーカー（CTL/CGL/UCL/OCL）（国内15社、海外4社）
- 4) ハードメーカー（MFP/LBP/PP）（国内10社、海外10社以上）

IV. 調査範囲及び調査方法

- 1. 調査範囲：調査対象範囲は、2020年～2026年とする。また、対象範囲は日本、北米、欧州、韓国、中国、その他地域とする。
- 2. 調査方法：1) 取材対象メーカーへの面談調査（オンライン面談含む）  
2) 公開されている文献、資料、統計等の分析及び調査    3) 弊社に蓄積されているデータの活用

V. 調査形態、調査期間、他

- 1. 調査形態：本調査はマルチクライアント方式による調査である。
- 2. 調査期間：2023年1月～2月
- 3. 調査報告刊行日：2023年2月22日
- 4. 提出報告書：A4判簡易製本版、PDF版
- 5. 1社当りの参加費用：日本文版 …… ¥500,000－（消費税は別途）（英文版 …… \$5,200－）
- 6. 調査担当：山本 幸男／吉田 晃介／針生 正史  
（TEL：03-3831-9201、FAX：03-3831-9204、E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp）      ホームページ：http://www.datasupply.jp/

《目次》

[調査結果の要旨]

A. 分析編

A-1. 全世界での感光体生産動向 ..... 1

1. 日本/海外メーカー別全体生産本数・生産金額推移（2020年～2026年） ..... 1

2. 国別のメーカー生産本数推移（2013年～2026年） ..... 2

3. 全世界の種類別用途別生産本数推移（2020年～2026年） ..... 3

4. 出荷用途別（ハード本体出荷用/サプライ用）感光体生産本数（2020年～2026年） ..... 5

1) 全体/2) サードパーティ比率(2021年～2023年)

5. 世界のベスト10（生産本数シェア）（2021年～2023年） ..... 7

1) 全体/2) OEM向け/3) サードパーティ向け

6. 地域別生産動向 ..... 10

1) 地域別種類別生産本数/2) 地域別用途別生産本数

7. メーカー別生産動向 ..... 12

1) 全世界メーカー別生産本数/2) 地域別メーカー別生産本数/

3) 地域別メーカー別種類別生産本数/4) 地域別メーカー別用途別生産本数

8. OEMとサードパーティの生産本数 ..... 26

8-1. ワールドワイド（2022年） ..... 26

8-2. メーカー別OEM量とサードパーティ量（2021年～2023年） ..... 27

9. 感光体用素管の生産動向 ..... 31

10. 日本メーカー各社の塗布材料使用状況 ..... 32

A-2. 感光体の生産拠点 ..... 33

1. 日本メーカーの地域別生産拠点 ..... 33

1) 全体/2) 工場・住所一覧

2. 海外メーカーの生産拠点一覧 ..... 36

B. 感光体市場編

B-1. 日本メーカーの動向（2020年～2026年） ..... 39

B-1-1. 日本メーカーの集計 ..... 39

1. 日本メーカーの種類別用途別生産動向 ..... 39

1) 生産本数/生産金額の推移（2020年～2026年）/

2) 種類別/用途別生産本数の推移（2020年～2026年）/3) 25年間の生産量推移

2. 種類別地域別メーカー別用途別生産動向（2020年～2026年） ..... 45

1) 全種類/2) OPC/3) Se系/4) a-Si

3. 直径別用途別種類別生産本数（2022年） ..... 53

4. 直径別メーカー別生産動向（2022年） ..... 54

1) 生産本数（MFP/PP用OPC、MFP/PP用a-Si、プリンタ/FAX用OPC、プリンタ/FAX用a-Si/

2) 生産金額

5. メーカー別直径別生産本数及び生産金額構成比（2022年） ..... 60

6. 直径別メーカー別生産本数及び生産金額の状況（2022年） ..... 64

1) 20φ/2) 24φ/3) 30φ/4) 40φ/5) 47φ/6) 50φ/7) 60φ/8) 65φ/

9) 80φ/10) 84φ/11) 100φ/12) 120φ/13) 180φ/14) 210φ/15) 240φ/

16) 260φ

7. 長さ別メーカー別生産動向（2022年） ..... 80

1) 生産本数/2) 生産金額

8. 直径別長さ別生産動向（2022年） ..... 82

1) 生産本数/2) 生産金額/3) 長さ別直径別生産本数及び生産金額構成比（A4～A0）

9. 日本メーカーの感光体の用途別種類別地域別生産状況（2021年～2023年） ..... 89

10. ロングライフ感光体（A3）の開発動向 ..... 90

11. 負帯電/正帯電別生産本数（2022年） ..... 90

12. ハードメーカーと感光体メーカーの主要供給関係（2022年） ..... 91

1) OEM納入量/2) MFP/PPメーカーと感光体メーカーの主要供給関係

3) レーザー/LEDプリンタ・FAXメーカーと感光体メーカーの主要供給関係

B-1-2. 日本の感光体メーカー個票 ..... 94

■共通調査項目■

全体生産量・生産金額（2020年～2026年予測）

- ・地域別/拠点別/種類別/用途別生産量（国内・海外）の現状と今後（2020年～2026年予測）
- ・生産拠点の動向（設備投資、製造ラインの増減と今後の拠点）
- ・直径別/用途別生産量
- ・直径別長さ別生産量と生産金額、単価（2022年実績）
- ・直径別長さ別製品ラインアップ状況
- ・正帯電/負帯電別生産量
- ・ロングライフ感光体の開発と今後
- ・外注/外販の拡大戦略
- ・小径化/大径化の状況
- ・塗布層と塗布材料（UCL、CGL、CTL、OCL）の現状と開発及び購入状況
- ・塗布方法
- ・純正メーカーのサードパーティ製感光体への対応策
- ・純正品（OEM）とサードパーティ製品の生産比率
- ・供給先別納入量（2021年～2023年見込）
- ・ワールドワイドの生産拠点一覧
- ・25年のあゆみ（2002～2022年実績、2023～2026年予測）
- ・SDGsへの取り組み（規制対応、リサイクル、省エネ/省人化etc）

キヤノン / リコー(山梨電子工業) / 富士フイルムビジネスソリューション / コニカミノルタ / 京セラグループ(京セラ/京セラドキュメントソリューションズ) / 三菱ケミカル / 富士電機 / シャープ

B-2. 海外メーカーの動向（2020年～2026年） ..... 191

B-2-1. 海外メーカーの集計 ..... 191

1. 海外メーカーの種類別用途別生産量 ..... 191

1) 生産本数/生産金額の推移（2020年～2026年）

2) 種類別/用途別生産本数の推移（2020年～2026年）

2. 中国メーカーの感光体生産量 ..... 193

3. 国別の感光体生産量の成長率 ..... 194

B-2-2. 海外の感光体メーカー個票 ..... 195

APS Photoconductor (Shanghai) (中国) / Guangzhou A&G Optoelectronics Technology (中国) / HG Technologies (中国) / Huaian Gantech Opto-Electronics (中国) / Lexmark International (米国) / Sindoh (韓国) / Suzhou Goldengreen Technologies (中国) / Xerox Corporation (米国) / その他メーカー (米国1社、中国5社、韓国3社、インド1社、バングラデシュ1社)

C. 感光体素管市場編

I. 全体動向 ..... 221

1. 感光体業界（素管、伸管、加工、塗布）のエントリー概要 ..... 221

1) 工程別参入動向 ..... 221

2) アルミ素管メーカーと加工メーカーの主要取引関係 ..... 222

3) アルミ素管メーカーから塗布メーカー（感光体メーカー）への供給関係 ..... 223

（アルミ素管メーカーと感光体メーカーの主要動向図）

2. 全世界での感光体素管生産量（2020年～2026年） ..... 226

3. 日本の感光体素管メーカー別生産量推移（2020年～2026年） ..... 227

4. 素管メーカー別直径別長さ別生産量 ..... 228

5. 感光体メーカーへの供給量（2022年） ..... 229

1) 全体 / 2) OPC / 3) Se, a-Si

II. 感光体素管メーカーの個別動向 ..... 232

■共通調査項目■

地域別（拠点別）生産量（国内・海外）

・種類別/直径別（20φ～260φ）/用途別/長さ別（A4～A0）生産量

・無切削/切削管の生産量

・感光体メーカーの生産拠点別納入量一覧（全世界）

・カラー用感光体への対応策（振れ、真円度、表面粗度、他）

・加工/伸管メーカーとの関係

・生産技術動向（切削管、無切削管）

・価格動向、採算性

・生産拠点の現状と今後

レゾナック(旧 昭和電工) / UACJ 押出加工 / 日軽金アクト

D. 塗布材料市場編

1. 全体概要 ..... 247

2. CTL ..... 248

2-1. バインダー樹脂：1) 全世界の市場（2020年～2024年）（全体概要/参入メーカー/材料別特徴/価格） / 2) バインダー樹脂の主要供給関係（国内）

2-2. CTM：1) 全世界の市場（2022年） / 2) メーカーシェア（内製メーカーの出荷量/CTMメーカーの出荷量） / 3) CTMの種類 / 4) CTMの主要供給関係

3. CGL ..... 253

3-1. バインダー樹脂 / 3-2. CGM

4. UCL ..... 253

5. OCL ..... 254

E. 感光体別直径別機種一覧（2019年～2023年）

1. MFPの感光体別機種一覧 ..... 255

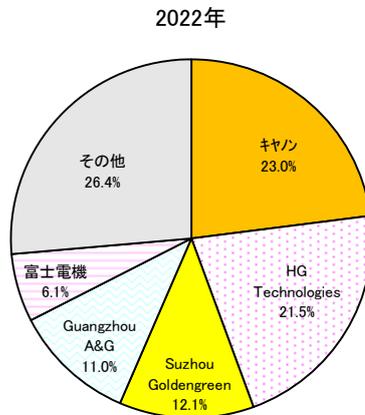
2. レーザー/LEDプリンタの感光体別機種一覧 ..... 263

3. プロダクションプリンタの感光体別機種一覧 ..... 271

# サンプルページ

## 「調査結果の要旨」より抜粋

### 2. 世界の感光体メーカーベスト10 (生産本数シェア)

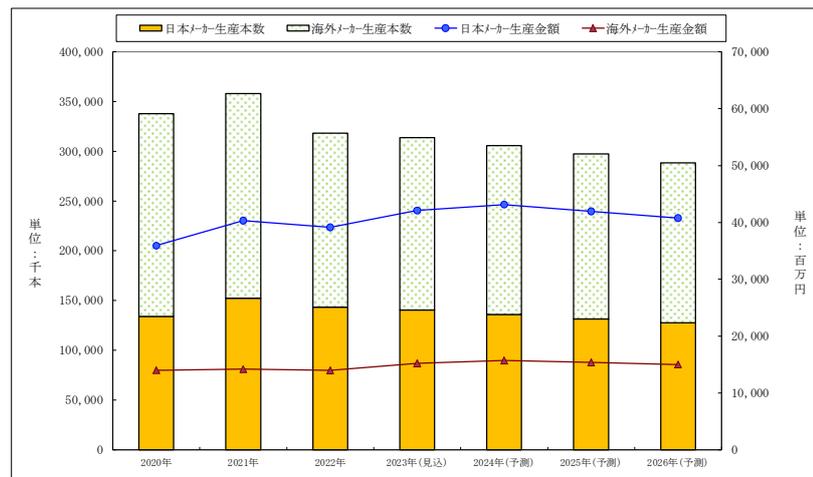


2022年の生産本数シェアはキヤノンがトップ。以下、中国3社、富士電機がこれに続く。

### 3. 全世界の感光体のOEM量

#### ◇ 調査結果の要旨 ◇

##### 1. 全世界の感光体生産動向



2022年のOEM/サードパーティ

##### 2022年における感光体生産動向

- ・ 全世界の生産本数：3億1,834万本（対前年比89%）
- ・ 全世界の生産金額：531億1千万円（対前年比97.4%）
- ・ 日本メーカーの生産本数：1億4,352万本（対前年比94.1%）
- ・ 日本メーカーの生産金額：391億3,500万円（対前年比97.1%）
- ・ 海外メーカーの生産本数：1億7,482万本（対前年比85.1%）
- ・ 海外メーカーの生産金額：139億7,500万円（対前年比98.5%）

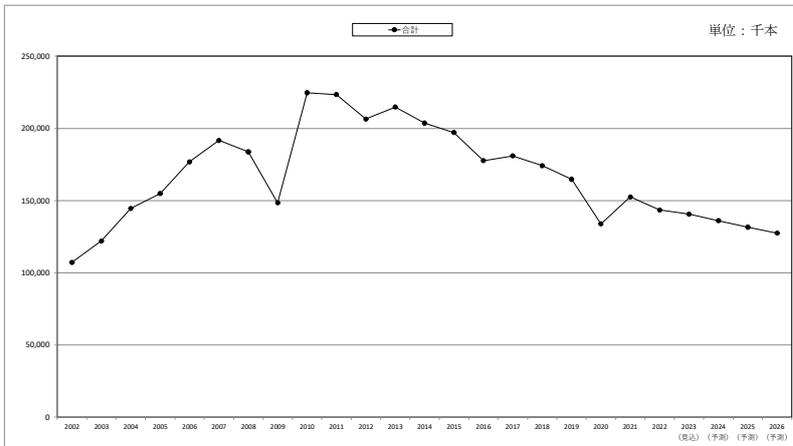
##### 2022年/2026年の年平均成長率（CAGR：Compound Average Growth Rate）

- ・ 全世界の生産本数：-2.3%
- ・ 全世界の生産金額：+1.2%
- ・ 日本メーカーの生産本数：-2.8%
- ・ 日本メーカーの生産金額：+1.0%
- ・ 海外メーカーの生産本数：-2.0%
- ・ 海外メーカーの生産金額：+1.8%

# サンプルページ

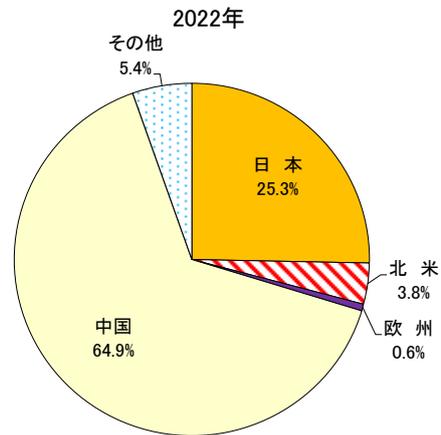
## 「調査結果の要旨」より抜粋

6. 日本メーカーの25年の感光体生産量の推移 (2002~2026年)



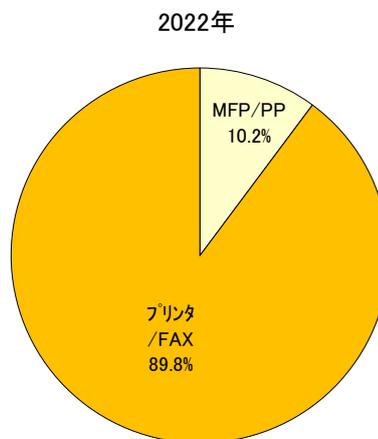
日本メーカーの感光体生産量は20年間で需要は急減している。いずれは

4. 感光体の地域別生産本数



2022年の地域別生産本数シェアは中国が全体の64.9%でトップ。日本(25.3%)がこれに続く。

5. 感光体の用途別生産本数



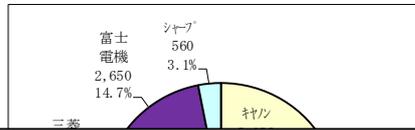
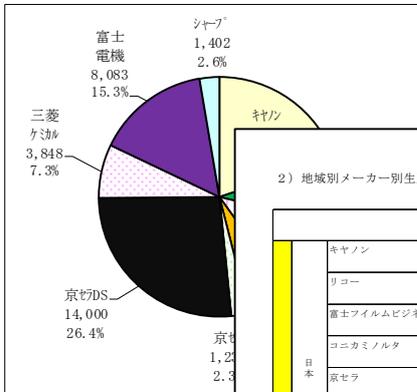
2022年の用途別生産本数シェアはMFP/PP用が全体10.2%、プリンタ/FAX用が同89.8%。

## 「分析編」と「感光体市場編」より抜粋

※実際のレポートには実数やコメントが入っています。

3) 30φ

メーカー名	生産本数 (千本)		生産金額 (百万円)	
		%		%
キヤノン				
リコー				
富士フイルムビジネスイノベーション				
コニカミノルタ				
京セラ				
京セラドキュメントソリューションズ				
三菱ケミカル				
富士電機				
シャープ				
計				



2) 地域別メーカー別生産本数

	単位：千本						
	2020年	2021年	2022年	2023年(見込)	2024年(予測)	2025年(予測)	2026年(予測)
日本	%	%	%	%	%	%	%
キヤノン							
リコー							
富士フイルムビジネスイノベーション							
コニカミノルタ							
京セラ							
京セラドキュメントソリューションズ							
三菱ケミカル							
シャープ							
北米							
キヤノン北米							
中国							
富士電機(深圳)							
京セラドキュメントテクノロジー(東莞)							
その他							
三菱ケミカルインフォニクス(シンガポール)							
ピナエムシーインフォニクス(ベトナム)							
山梨電子タイランド(タイ)							
日本メーカー合計							
北米							
Lexmark International							
Xerox Manufacturing (Nederland BV)(オランダ)							
欧州							
韓国							
Sudoh							
中国							
APS Photoconductor (Shanghai)							
Guangzhou A&G Optoelectronics Technology							
HG Technologies							
Huain Gantech Opto-Electronics							
Suzhou Goldengreen Technologies							
その他							
海外メーカー合計							
合計							

# サンプルページ

## 「感光体市場編」より抜粋

※実際のレポートには実数やコメントが入っています。

【3】HG Technologies (中国)

1. 全体状況

1) 生産本数/生産金額の推移 (2020年~2026年)

	年	2020年		2021年		2022年		2023年(見込)		2024年(予測)		2025年(予測)		2026年(予測)	
			%		%		%		%		%		%		%
生産本数 (千本)	MFP/PP														
	対前年比(%)														
	プリンタ/FAX														
	対前年比(%)														
	合計														
対前年比(%)															
生産金額 (百万円)	MFP/PP														
	対前年比(%)														
	プリンタ/FAX														
	対前年比(%)														
	合計														
対前年比(%)															



HG Technologiesの2022年における  
 2023年は対前年比101%の6,900万本  
 同社は国有系企業の信頼性とその  
 の開発やOEMビジネスの拡大をする

(単位:千本)

			2020年	2021年	2022年	2023年(見込)	2024年(予測)	2025年(予測)	2026年(予測)
OPC	取手事業所	MFP/PP							
		プリンタ/FAX							
		小計							
		対前年比%							
	キヤノン プレジジョン	MFP/PP							
		プリンタ/FAX							
		小計							
		対前年比%							
	キヤノン化成	MFP/PP							
		プリンタ/FAX							
		小計							
		対前年比%							
長浜キヤノン	MFP/PP								
	プリンタ/FAX								
	小計								
	対前年比%								
大分キヤノン マテリアル	MFP/PP								
	プリンタ/FAX								
	小計								
	対前年比%								
a-Si	長浜キヤノン	MFP/PP							
	プリンタ/FAX								
	小計								
	対前年比%								
合計	MFP/PP								
	対前年比%								
	プリンタ/FAX								
	対前年比%								

- ① 国内拠点は、取手事業所(茨城県)、キヤノンプレジジョン(青森県)、大分キヤノンマテリアル(大分県)、長浜キヤノン(滋賀県)の4拠点。主要拠点はキヤノンプレジジョンと大分キヤノンマテリアル。a-Siドラムは長浜キヤノンのみで生産。
- ② 国内は現状4拠点で生産しているが、感光体市場全体の縮小スピードが加速しており、中長期的には国内拠点の集約・再編を実施する可能性もあると予測される。

## 「感光体素管市場編」と「塗布材料市場編」より抜粋

※実際のレポートには実数やコメントが入っています。

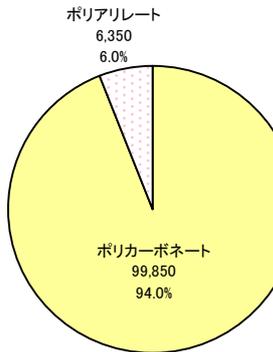
### 2. CTL (Charge Transport Layer : 電荷輸送層)

#### 2-1. バインダー樹脂

##### 1) 全世界の市場 (2020年~2024年)

単位: kg

	2020年		2021年		2022年		2023年(見込)		2024年(予測)	
		%		%		%		%		%
三菱ガス化学										
対前年比										
帝人										
対前年比										
出光興産										
対前年比										
三菱ケミカル										
対前年比										
その他										
対前年比										
ポリカーボネート合計										
対前年比										
ユニチカ										
対前年比										
ポリアリレート合計										
対前年比										
合計										
対前年比										



<材料比率 (2022年)>

#### (1) 全体概要

ポリカーボネートとポリアリレート  
2022年の出荷量は対前年比 90%  
(全体の94%)、ポリアリレート  
ポリカーボネートは日本の4社  
委託して中国メーカーに供給。  
も少量の生産を継続。

#### 4. 素管メーカー別直径別長さ別生産量

(単位: 千本)

(φ)	メーカー	レゾナック	UACJ 押出加工	日軽金 アクト	富士アルミ 管工業	計	
							%
A 4	20						
	24						
	30						
	40						
	47						
	60						
	計						
A 3	30						
	40						
	47						
	50						
	60						
	80						
	84						
	90						
	100						
	108						
	120						
180							
210							
計							
A 2 以上	240						
	260						
	計						
合計							

# 株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

（ 刊行日・価格の  
変更があります ）

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F  
 TEL：03（3831）9201、FAX：03（3831）9204  
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、harianu@datasupply.jp  
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2023年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

	日本語版		英語版		部数	金額
	価格 (消費税別)	刊行日	価格 (消費税別)	刊行日		
<b>《 定期刊行物 》</b>						
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート（1986年～） 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	日 英	年 月号より ヶ月/年
i4inkjet [Directions] (年6回発行、年300頁～) ※インクジェット関連の特許技術レポート	—	—	¥550,000～	2021年 7/27～	英	
<b>《 2023年刊行予定物 》</b>						
* 2023年版[感光体マーケット総覧] (272頁) 『変化の時代に真価が問われる感光体市場の総合分析』	¥500,000	2/22	\$5,200	4/下 予定	日 英	
* 2023年版[ローラー系部品マーケット総覧]	¥400,000	4/下 予定	—	—	日 英	
* 2023年版[トナーマーケット総覧]	¥600,000	6/下 予定	\$6,000	8/下 予定	日 英	
* 2023年版[インクジェット印刷マーケット総覧]	¥500,000	10/下 予定	\$5,000	12/中 予定	日 英	
* 2023年版[MFPマーケット総覧]	¥600,000	12/下 予定	—	—		
<b>《 2022年刊行物 》</b>						
* 2022年版[感光体マーケット総覧] (273頁) 『基幹部品としての重要度を堅持する感光体市場の展望』	¥500,000	2/25	\$5,200	4/20	日 英	
* 2022年版[ローラー系部品マーケット総覧] (393頁) 『共存共生関係の構築を目指す部品業界の総合分析』	¥400,000	4/25	\$5,000	7/8	日 英	
* 2022年版[トナーマーケット総覧] (594頁) 『ハイブリッドワーク時代に於けるトナー市場の総合分析』	¥600,000	6/24	\$6,000	8/19	日 英	
* 2022年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (419頁) 『ものづくりに変革をもたらすインクジェット技術の 最新市場動向』	¥500,000	10/26	\$5,000	12/9	日 英	
* 2022年版[MFPマーケット総覧] (723頁) 『DX時代に問われる事務機業界の成長性分析』	¥600,000	12/22	—	—		
<b>《 その他の刊行物 》</b>						
* 2020年版[MIFマーケット総覧] (501頁) 『オフィス向け電子写真製品の設置台数とトナー量に関する長期予測』	¥400,000	2020年 9/28	\$4,000	2020年 12/23	日 英	
* 2020年版 【緊急レポート(コロナショックと業界大規模再編)】(240頁) 『業界再編とコロナショックに揺れる事務機業界の 地域別メーカー別分析』	¥300,000	2020年 4/24	\$3,000	2020年 6/19	日 英	
* 2014年版[企業便覧シリーズ] (128頁) 『中国の機能性部品ローカル企業100社便覧』	¥150,000	2014年 9/29	\$1,500	2014年 10/31	日 英	